

第15回 口腔機能って何だろう？

＝ 「口腔機能」は、環境的要因によっても低下する ＝

北九州在宅医療・介護塾
塾長 久保 哲郎

前回は、加齢や廃用、低栄養や疾患等が「患者側の要因」となって高齢療養者の口腔機能を低下させ、口腔機能障害が生じることについてご紹介しました。

この「療養者側の要因」の他に、「環境的要因（療養者の生活の営みの場）」も口腔機能低下に関係しますので、以下「環境的要因」についてご紹介します。

「環境的要因」というのは、制度的環境（社会資本、社会保障制度など）、物理的環境（食形態、食環境、生活環境など）、社会文化的環境（地域の習慣や食文化、食習慣など）、キュア・ケア環境（療養の場における家族や援助者の言動や介助方法など）が含まれます。

このようなことを踏まえ、高齢療養者の口腔機能が低下し、「食べることができない、飲み込むことができない」という状態が生じた際には、その要因を単に「歯・口腔」に限定はせずに、「療養者側の要因」と「環

境的要因」との両要因について検討を行うことが必要で、特に「環境的要因」は、「療養の生活の営み」に関係しているため、「その人らしく生きる生活の場」や、「その人にあった快適な居場所」として適切な環境を整えるための貴重な情報になるといえます。

ところで、以前このページで口腔機能は脳神経系機能と関係していることをご紹介しましたが、不安や心配、嫌悪や羞恥などの他、療養生活によって生じる精神的な不快状態が口腔機能低下を引き起こすこととなりますので、低下した口腔機能を改善する際には、「その人にあった快適な療養生活を可能にする環境づくり」に先ず取り組むことが必要になります。

このことは、認知症者に対する「オレンジカフェ」にも関係し、認知症者にはどのような“居場所づくり”が適切なのかについて、一度考えてみられてはどうでしょうか。

